

# くだ 【下らない】

江戸時代、上方(京都や大阪)から江戸に出荷される酒は、上質な「下り酒」として人気がありました。一方、江戸に運ばれない「下らない酒」は品質が落ちるとされ、現在の「くだらない」の語源となったという俗説。

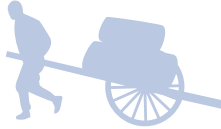
参考文献:「語源由来辞典」



# 物流タイムマシーン

意外と知られていない物流にまつわるトリビア(雑学・豆知識)。  
ちょっと時間を遡って、昔の物流に触れてみませんか。

## だい はち ぐるま 【大八車】



資材や物資などを迅速かつ手軽に運ぶ手段として、江戸時代に開発された荷車のこと。現代でいう小型トラックのような存在でした。名前の由来は、車台の大きさが八尺(約2.4m)なので「大八」、8人分の運搬をするという意味で「代八」など諸説あります。ちなみに、当時は1人が米俵1俵(60kg)を担いで運んでいたの、8人分となると480kg運んでいたことになります。

参考文献:日本大百科全書、世界大百科事典

## こおり けん じょう 【氷献上】

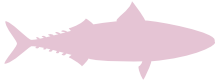
江戸時代旧暦6月1日、加賀藩(石川県)・前田家が冬の間に氷室で貯蔵した雪氷を江戸の将軍家へ献上する行事。氷をむしろ(藁で編んだ敷物)と布で包み、熊笹が詰められた特製の木箱に納めることで、クーラーボックスの役割を果たしました。総重量100kg。それを江戸まで約480km、通常10日かかる道のりを加賀飛脚が4日間で運んだといわれています。

参考文献:(一社)石川県トラック協会「加賀飛脚」

## さば かい どう 【鯖街道】

福井県から京都を結ぶ物流ルートで、特に18世紀後半からは鯖が多く運ばれたことから「鯖街道」とも呼ばれるように。若狭湾で獲れた鯖に一塩し、夜も寝ねずに京都まで運ぶと、ちょうどよい味になっていたとか。

参考文献:公社「福井県観光推進課 鯖街道を走る旅」



## にほんはつ 【日本初の有料道路】

江戸時代、豊前国(現在の大分県)の交通の難所であった深谷を安全・安心に通過できるよう、「青の洞門」と呼ばれる手掘りのトンネルがつくられました。30年かけてノミと金槌だけで掘り進められ、1764年に完成。通行料として二人は4文(約130円)、牛馬は8文(約250円)を徴収し、それを修繕費用に充てていたとされ「日本初の有料道路」ともいわれています。

参考文献:中津市役所「青の洞門」

## いそ まわ 【急がば回れ】

江戸時代、東海道の草津宿(滋賀県草津市)から京都に向かうには、琵琶湖を船で横断するのが最短路でした。しかし、比叡山から吹き下ろす突風(比叡おろし)により船が転覆する危険性が高く、安全を優先するのなら陸路の方が良いとされました。これが「急がば回れ」の語源になったそうです。

参考文献:大津商工会議所「大津e湖都市場」

## ひ きやく 【飛脚】

江戸時代に活躍した手紙や荷物を運ぶ職業のこと。江戸と大阪間をリレー方式で約5〜9日かけて運び届けました。飛脚と産婆(助産師)はその重要性から、大名行列を横切ることが許可された数少ない職業だったそうです。

参考文献:公社「全日本トラック協会物流令舎」

